

平成 23 年度第 6 回兼平成 24 年度第 1 回 産業応用部門論文委員会主査会議 議事録 (案)

1. 日時 平成 24 年 3 月 19 日(水) 13:30-15:30
2. 場所 電気学会本部会議室
3. 出席・欠席者 (敬称略) : D1:4 名、D2:3 名、D3:3 名、D4:3 名、D5:2 名、他:2 名
(重複所属主査については各グループ人数に重複してカウント)

○出席

竹下 (編修長、名古屋工業大学)、村上 (編修長補佐、慶應義塾大学)、木村 (23 年度 D1,D5 主査、大阪工業大学)、船渡 (24 年度 D1 主査、宇都宮大学)、綾野 (24 年度 D1 副主査、東京高専、記録)、庄山 (25 年度 D1 副主査、九州大学)、森本 (23 年度 D2,D4 主査、東海大学)、山口 (24 年度 D2 主査、リコー)、岩崎 (24 年度 D2 次年度副主査、名工大)、米谷 (23 年度 D3 主査、三菱電機)、村井 (24 年度 D3 主査、東海旅客鉄道)、野口 (24 年度 D3 副主査、静岡大学)、道木 (24 年度 D4 主査、名古屋大学)、叶田 (24 年度 D4 副主査、日立製作所)、亀井 (24 年度 D5 主査、三菱電機)

×欠席

藤田 (東京工業大学、編修広報担当役員)、高橋 (25 年度 D2 副主査、香川大学)、樋口 (25 年度 D3 副主査、長崎大学)、浜松 (25 年度 D4 副主査、日本大学)、近藤 (24 年度 D5 副主査、千葉大学)、鈴木 (25 年度 D5 副主査、筑波大学)、山崎 (ゲストエディタ、千葉工大)、南方 (ゲストエディタ、千葉工大)、赤津 (ゲストエディタ、芝浦工大)、姉崎 (ゲストエディタ、沖縄高専)、大石 (ゲストエディタ、長岡技科大)

4. 提出資料

- 23-6-0 平成 23 年度第 6 回 D 部門主査会議事 (船渡)
- 23-6-1 平成 23 年度第 5 回産業応用部門論文委員会主査会議議事録 (案) (船渡)
- 23-6-2 電子査読システム運用状況 (村上)
- 23-6-3 特集号の論文募集案(回転機技術特集) (村上)
- 23-6-4-1~7 論文委員候補者推薦用紙 (村上)
- 23-6-5 2012 年度論文委員会改選案、2012 年度主査会メールリスト (村上)
- 23-6-6 主査会役割分担表 (村上)
- 23-6-7-1 「異議申し立て」に関する回答書 (村上)
- 23-6-7-2 RE: Reply to your question (村上)
- 23-6-8 グループ構成表 (村上)
- 23-6-9 論文委員会幹事の役割(注意点と事例) (村上)

5. 議事

5.1 議事録確認

事前配布資料に対して、出席メンバーとして、ゲストエディタに関する注記(該当特集号投稿締切り 1 ヶ月前から特集号発行半年後まで ML 登録。正式には、委嘱日から特集号発刊直後の主査会まで主査会メンバーとなる。)が追記された。さらに、5.11 節において「全員日本語」を「全員日本人」に修正された上で承認された。

ゲストエディタの権限・職務について、D 部門論文委員会のホームページの特集号の企画運営マニュアルに記載されており、周知させて貰いたいとの意見があった。特に、提案時など事前に候補者を推薦してもらえるような仕組みが必要との要望があった。さらに、投稿者に他の投稿論文を査読してもらいたいが、現状では幹事は投稿者の情報が把握できないため、ゲストエディタからの連絡があると良いという意見があった。まずは、ゲストエディタと主査・担当幹事で連絡を密にすることから着手していくことになった。また、C 部門の論文査読者に関するリストがあると良いという意見があった。今後、提案がされた時に考えていくことになった。

木村 23 年度 D1・D5 主査より、特集論文「Okinawa 型ロボット・組み込みシステム」について、分野が多岐に渡っているため、査読者選定が困難との報告があった。適任者が見つからない場合には、鈴木幹事 (25 年度 D5 副主査)に査読者候補を挙げてもらうことが確認された。

村上編修長補佐より、新システムの移行に関する追加説明があった。新システムでは、登録者情報の移行は登録者自身に行ってもらう予定である。これは、個人情報の移行に関する法律的な問題の回避と重複した登録情報に対する改善のためである。ただし、論文委員の過去情報等が削除される。本件は、移行前に村上編修長補佐より再度説明される。

5.2 電子査読システム運用状況

村上編修長補佐より資料 23-6-2 に基づき説明があった。23 年における投稿状況は、D1 72 件(レター18 件)、D2 71 件(レター3 件)、D3 69 件(レター9 件)、D4 21 件(レター18 件)、D5 17 件(レター1 件)である。昨年より少し減ったが、一昨年と同等であり、平年並みの状況である。

掲載完了の特集号は、「半導体電力変換」特集、「J-RAIL2010」特集、「産業計測制御全般」特集の 3 件であり、予定されている特集号は、「Power Electronics」特集、「Motor Drive and Related Technologies」特集、「Motion Control and its Related Technologies」特集、「Okinawa 型ロボット・組み込みシステム」特集、「産業計測制御全般」特集の 5 件である。なお、「Motor Drive and Related Technologies」特集の投稿状況は 2 月末時点で 6 件である。

共通英文誌の 23 年における投稿状況は、合計 30 件であり、例年通りの件数である。ただし、24 年は D 部門英文誌が刊行されるため減少する可能性がある。

5.3 特集号状況確認

回転機技術特集号について、竹下編修長より、メール審議により承認されたとの報告があった。さらに、米谷 23 年度 D3 主査より、案内に関する報告があった。投稿締切りは 12 月 27 日であり、ゲストエディタは中部大学の廣塚先生である。また、ICEMS で発表した案件は、著作権は電気学会にあるが、IEEE Explore に掲載されるため内容を少し変更して掲載する予定であり、案内にも記載されていることが確認された。さらに、ICEMS の発表案件は投稿時に論文添付させることとし、変更部分の判断は廣塚ゲストエディタが実施することを決定した。これに関しては、米谷 23 年度 D3 主査から廣塚ゲストエディタに連絡する。本特集号の情報に関して WEB 掲載は可能であり、事務局に連絡しておくことでチェックができるとのこと。

特集号状況の報告は、本来であればゲストエディタが実施するものであり、来年度から徹底していくことが確認された。

5.4 論文委員の推薦について

論文委員の推薦について、7 件の審議があり全員承認された。承認された論文委員は、関健太氏(名工大)、木村守氏(日立)、山本修氏(職業能力開発総合大学校)、坂本織江氏(上智大)、坪井雄一氏(東芝三菱産業システム)、岩谷一生氏(TDK ラムダ)、浦崎直光氏(琉球大)である。

論文査読に関して、論文委員や会員でない場合も可能であるが論文の執筆経験があることが前提であることが確認された。ただし、論文委員でない場合は原則として幹事になれない。また、査読システムにおいては「D」と付いているか否かで論文委員の判別が可能との連絡があった。さらに、幹事への査読依頼に関して、不可ではないが、緊急対応時の査読を担う可能性があるため、できるだけ依頼しないということが確認された。

論文委員のリストについて、メールアドレスが古いとの意見があった。現状のシステムでできる範囲は事務局にお願いしていくが、新システム移行時に整理していくことを決定した。また、依頼不可の方のリストが出ると良いとの意見があり、村上編修長補佐の方で調整していただくことになった。

竹下編修長より、元神戸大学の小豆澤先生の論文委員退任に関する連絡があった。今後、退任時には、本人から事務局に連絡して登録を削除してもらうように徹底することが確認された。また、現行の論文投稿時にリスト掲載されるシステムの意図について質問がでたが、投稿者にも査読をお願いしたいということが理由であることが確認された。

5.5 次期論文委員会幹事団構成について

村上編修長補佐より次期論文委員会幹事団構成について報告があった。副編修長のポストが新設され、徳島大学の寺田先生が着任されることが報告された。

メーリングリストの英語表記に関して、主査、次期主査が確認し、3 月末までに村上編修長補佐に連絡することが連絡された。

資料 23-6-5 の 20120319-15 頁のメーリングリストにおいて、所属、メールアドレスの一部に誤りがあり、修正後に村上編修長補佐より主査へ連絡することが決定した。

5.6 主査会役割分担について

村上編修長補佐より、主査会役割分担についての審議があり、特集号受付の役割を編修長補佐から編修広報委員に移すことが決定された。特集号受付の主な役割は、(1)ニュースレターの原稿受付、(2)特集案内・起案書内容のチェック、(3)事務局への連絡・主査会での報告である。

また、資料 23-6-6 に基づいて主査会の役割分担が報告された。2012 年度産業応用部門大会の論文委員長は森本 23 年度 D2 主査、意見交換会担当は亀井 D5 主査、YPC 担当は船渡 D1 主査、編修広報委員会委員は叶田 D4 副主査、研究調査委員会委員は近藤 D5 副主査がそれぞれ担当する。さらに、ホームページ担当は岩崎 D2 副主査、議事録担当は綾野 D1 副主査、英文誌担当は野口 D3 副主査が担当する。

5.7 返送異議について

村上編修長補佐より、2 件の返送異議に関して審議依頼があった。資料 23-6-7-1 については、前回報告内容に関して回答書最終案であり、(1)薄い文字の部分を付け加えること、(2)「新規性および有用性」を評価できない の部分を「創造性および新規性」を評価できない に修正すること(レターの場合は「有用性」は認めないため) で最終的な回答書とすることが承認された。

資料 23-6-7-2 については、レターに関する案件であり、「一点でのみ有効な結果であり、汎用に証明できないため不可」との内容で回答することで承認された。さらに、和文誌の異議に対する回答は「論文委員会」の名前で返送するが、英文誌の場合は「IEEEJ Editor in Chief」として返送する方が良いとの意見が出されたが、タイトルを含めて誰の名前で出すかは事務局に任せることとした。

5.8 論文査読功労賞、部門論文賞について

論文査読功労賞、部門論文賞についての審議依頼があり、D3 グループ部門の論文賞候補を決定した。

他のグループに関しては、各グループ調整後に主査から竹下編修長へ連絡し、その後、メール審議とすることを決定した。竹下編修長への連絡は4月初旬を締切りとする。

5.9 全国大会のグループ構成について

竹下編修長より、メール審議のあった全国大会のグループ構成に関する連絡があり、次の2点が確認された。

- ・回転機制御技術 を 電気機器 に移動する。

・磁気浮上・磁気軸受・超伝導応用 は論文数が少ないので一つにまとめる。

本件は、平成 25 年度の全国大会から実施予定であり、竹下編修長から事務局へ連絡する。グループ主査の役割は D1 主査がパワーエレクトロニクス、D2 主査が産業システム、D3 主査が電気機器をそれぞれ担当し、D4 主査、D5 主査は元々の推薦を受けた委員会の委員となることが確認された。

全国大会のグループ編成と部門大会のグループ編成の依頼メールが、現状では同時期に出されることになっており、混乱が生じているとの意見があった。これに関しては、次回以降に調整していくこととした。

5.10 「サーベイ論文」について

竹下編修長より、サーベイ論文についての意見交換の依頼があり、位置づけを中心に議論がなされた。方向性としては、(1)特集号の招待論文を前提とする、(2)一般論文のサーベイ論文は、審議の対象とする ということが確認された。他の主な意見は下記のとおりであり、これらを踏まえて、竹下編修長がたたき台を作成する。

<意見>

- ・現状は、サーベイ論文の査読基準が明確でないため、査読者への説明が大変。
- ・発刊予定の英語論文誌の特集号にはサーベイ論文が含まれている。
- ・解説記事との区別はどうなっているのか？
 - ・解説は SCI 登録ができないという経緯があった。
 - ・過去の解説は投稿料を払って書いてもらっていた。
- ・サーベイ論文の基準・有用性をどのように判断するか？
- ・資料との区別は何か？
- ・特集号ではなく通常の場合はどう扱うか？
- ・通常の査読プロセス以外、例えば主査会などで判断してもよいのではないか？
- ・共通英文誌の特集号で「Review」と記載しているが査読をしたことがある。
- ・現状では、解説としてはほとんど掲載されていない。D 部門では論文として載せている。
- ・サーベイ、Review、解説の定義があいまいになっており整理が必要。

5.11 その他

(1)次回の主査会日程は 第一候補 6 月 12 日とし、第二候補を 6 月 11 日とする。

(2)河村次期 D 部門長より挨拶があった。7 月に英文論文誌が発刊されるが 3 年後には SCI 論文にしたいとのこと。この場合には、査読のやり方を変える必要がある。ご協力お願いしたく。

(3)会議の冒頭に自己紹介が行われた。